栗田　宜明 先生

総合内科専門医･腎臓専門医･透析専門医･米国内科学会上級会員(FACP)。1979 年生まれ。2004 年東京大学医学部医学科卒業。三井記念病院で総合内科医・腎臓透析医として 6 年間の研鑽を積む。2010 年に京都大学医療疫学分野に進学。臨床疫学の学習と実践を経て、2014 年に博士(医学)を取得。同年 福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター講師に着任。2016 年から同大学附属病院臨床研究教育推進部 部長 兼 准教授に着任。2019 年 4 月から同大学大学院 医学研究科 臨床疫学分野 特任教授に着任。

大学院授業では、臨床研究のデザインと統計解析の講義・ハンズオン実習､治療・診断に関する臨床研究の実践など、4 科目を担当。受講生から *Surg Endoscopy*, *Br J Surg* [IF=5.9]等の臨床研究論文が発信されている。大学院生の研究解析・論文化を指導し、学位取得などに貢献 (Niihata, *JAMDA* 2018 [IF=5.2])したほか、メディアへの掲載に貢献(伊藤文人, 日経メディカル・読売新聞 2018; 飯田英和, 福島民報 2019)。社会活動は米国内科学会日本支部年次総会抄録査読委員長(2013―2016)、日本リウマチ学会臨床研究推進小委員会委員(2018－)等。自筆による競争的研究資金の獲得額は 4,862 万円。

Kidney Int [IF=8.4], *Diabetes Care* [IF=13.4], *Br J Surg, AJKD* [IF=7.6]等を含め、査読つき英文論文 49 編(うち筆頭著者 26 編、責任著者 10 編)を発表。最近の業績は、東日本大震災・福島第 1 原発災害による福島市の出生率への影響を評価した研究 (*JAMA Network Open* 2019)や、健康に関連したホープを、要因やアウトカムとして測定するための尺度開発(HR-Hope scale; *Annals of Clinical Epidemiology*, in press)。腎臓領域では、4 種類の Clinical Question で診療ガイドライン策定に資する臨床研究論文の発信。具体的には、二次性副甲状腺機能亢進症の HD 患者を対象にした、シナカルセトの PTH 依存性の有効性 (*Sci Rep* 2016)、PTH・Ca・iP の測定頻度と診療ガイドライン達成度の関係 (*Nephrol Dial Transplant* 2017)、CKD ステージ 5 で作成された内シャントの導入前の機能予後記述 (*Am J Nephrol* 2017)、高い透析間体重増加と予後不良の関係性が､血清アルブミン低値の場合では低い体重増加と予後不良の関係性へと逆転する現象 (*J Renal Nutr* 2017)。